

質問項目番号Ⅲ-18⑤

援助内容(保護者等の病気や急用等の場合に子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	645	67.12%
利用している	289	30.07%
無回答	27	2.81%
合計	961	100.00%

表 1-27 援助内容(保護者等の病気や休養等の場合に子どもを預ける)

質問項目番号Ⅲ-18⑥

援助内容(冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際、子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	821	85.43%
利用している	114	11.86%
無回答	26	2.71%
合計	961	100.00%

表 1-28 援助内容(冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際、子どもを預ける)

質問項目番号Ⅲ-18⑦

援助内容(買い物等外出の際、子どもを預ける。)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	815	84.72%
利用している	120	12.47%
無回答	27	2.81%
合計	961	100.00%

表 1-29 援助内容(買い物等外出の際、子どもを預ける)

○質問項目 18⑧

質問項目 18⑧は、表 1-30 に示すとおり、援助内容の選択肢の「その他」に回答した利用者である。

選択肢の項目にない援助内容を、28.62%(275 人)が利用している。

質問項目番号Ⅲ-18⑧

援助内容(その他)

選択肢	度数	パーセント
利用していない	655	68.16%
利用している	275	28.62%
無回答	31	3.23%
合計	961	100.00%

表 1-30 援助内容(その他)

○質問項目 18⑧の自由記述

質問項目 18⑧において、「その他」を選択した 275 人を母集団とすると、自由記述に回答したのは、197 名(71.6%)である。

自由記述を整理すると、表 1-32 のような 8 つのカテゴリーに分けられる。

その他の援助内容	人数
1)親の仕事	83
2)子どもの習い事	38
3)親のリフレッシュ	25
4)親の通院、出産など	19
5)子どもの病気、障害	15
6)保育所の代替	3
7)家事、育児の手伝い	2
8)その他	12

表 1-32 その他の援助内容

3. 分析および考察

回答者の属性について、以下のことが明らかになった。

①利用者の約 8 割は、30 才以上～45 才未満である。

②13 才未満の子どもを持つ利用者が約 9 割である。

③利用者は、就業している親が多いが、就業していない親の利用も約 3 割ある。

④就業している利用者は、非正規雇用・パート・アルバイトが、約 3 割。また、就労時間は、9 時間以上が約 3 割。不安定で、長時間労働が約 3 割程度あるとい

うことである。

⑤利用会員のうち、約4割強が、今後提供会員になりたいと回答している。その理由として190人が、「助けてもらった、支えられた経験から恩返しをしたい」と回答している。さらに、103人が「助け合いたい、人の役に立ちたい、地域に貢献したい」と回答している。

⑥一方、利用会員のうち、約5割が、今

後提供会員にならない、と回答している。理由としては288人、「時間がない、子育てで手一杯、まだ考えられない、仕事がある」と回答している。

⑦援助内容では、その他の項目で、ファミリー・サポート・センター事業が、休日保育や待機児童対策、病児・病後児保育などの保育所の代替的役割を果たしていることがわかる。

---

1 内閣府「平成18年版少子化社会白書—新しい少子化対策の推進」平成18年、ぎょうせい参照。

2 1と同書参照。

## Ⅶ 単純集計〈親への調査票〉

### 2. 親になってから最近までの心境の変化について

#### 〈要旨〉

ここでは、ファミリー・サポート・センター事業の利用者 962 名から回答をえた。ファミリー・サポート・センター事業を利用している親は、ファミリー・サポート・センター事業を利用する中で、どのような心境の変化があるのだろうか。そこには親の発達につながるような変化があるのだろうか。このことを明らかにするために親の発達に関する調査項目、および選択肢を、先行研究である柏木恵子、若松素子調査を援用し、設定した。

結論としては、親の成長・発達に関する項目の中で、特に「生き甲斐・存在感」の項目が突出して高い値がでている。第1章においても述べたように、利用者は「自分が大変なときに助けて頂いた。」「誰かに恩返しをしたい」という気持ちになっている。利用者の親としての大変さを支え、自己の存在感まで支えているファミリー・サポート・センター事業の役割があきらかになったといえよう。

#### 1. 問題設定

ここでは、ファミリー・サポート・センター事業の利用者 962 名から回答をえた。ファミリー・サポート・センター事業を利用している親は、ファミリー・サポート・センター事業を利用する中で、どのような心境の変化があるのだろうか。そこには親の発達につながるような変化があるのだろうか。このことを明らかにするために親の発達に関する調査項目、および選択肢による回答を設定した。ここで設定した質問項目は、柏木恵子、若松素子(1994)が、親の生涯発達の観点から<sup>1</sup>検討した項目である。対象は、3～5才の幼児を持つ親 346 対(父親と母親)である。「親となる」ことによる発達として、第1因子:柔軟性、第2因子:自己抑制、第3因子:運命・信仰・伝統の受容、第4因子:視野の広がり、第5因子:生き甲斐・存在感、第6因子:自己の強さが抽出されている。

#### 2. 選択肢の回答

柏木・若松調査における、各次元項目の

得点平均(標準偏差)は、表 2-1 の通りとなっている。また、ファミリー・サポート・センター事業利用者の各次元項目得点平均(標準偏差)は、表 2-2 の通りである。

比較してみると、一番高い数値は、やはり第3因子:運命・信仰・伝統の受容である。また、一番低い数値は、第6因子:自己の強さ

	父	母	P
第1因子:柔軟性	2.40 (0.74)	< 2.83 (0.61)	***
第2因子:自己抑制	2.57 (0.72)	< 2.99 (0.62)	***
第3因子: 運命・信仰・伝統の受容	2.71 (0.73)	< 3.12 (0.54)	***
第4因子:視野の広がり	2.21 (0.67)	< 2.60 (0.63)	***
第5因子: 生き甲斐・存在感	2.82 (0.57)	< 2.95 (0.53)	**
第6因子:自己の強さ	2.35 (0.69)	< 2.52 (0.58)	***

である。第1因子:柔軟性と第5因子:生き甲斐・存在感が若干前後するものの、数値は、同じような傾向を示している。又、全ての項目において、ファミリー・サポート・センター事業利用者の値が高い。

表 2-1 柏木・若松論文「親となることによる成長・発達」次元得点平均(標準偏差)<sup>2</sup>

注. \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

	利用者	P
第1因子:柔軟性	3.27 (0.73)	***
第2因子:自己抑制	3.55 (0.64)	***
第3因子: 運命・信仰・伝統の受容	3.67 (0.54)	***
第4因子:視野の広がり	3.14 (0.69)	***
第5因子: 生き甲斐・存在感	3.25 (0.59)	***
第6因子:自己の強さ	2.86 (0.70)	***

表 2-2 ファミリー・サポート・センター事業利用者の「親となることによる成長・発達」次元得点平均(標準偏差) 注. \*\*\*p<.001

ここでは柏木・若松調査を援用し、本研究における質問項目を以下の通り設定した。

**第1因子:柔軟性**

- 2 考え方が柔軟になった。
- 4 精神的にタフになった。
- 6 小さなことにくよくよしなくなった。
- 30 角がとれて丸くなった。
- 31 度胸がついた。
- 33 他人に対して寛大になった。
- 35 いろいろな角度から物事を見るようになった。

た。

**第2因子:自己抑制**

- 3 儉約するようになった。
- 8 他人の迷惑にならないように心がけるようになった。
- 9 自分本意の考えや行動をしなくなった。
- 10 他人の立場や気持ちをくみとるようになった。
- 29 人との和を大事にするようになった。
- 39 思い通りにならないことがあっても我慢できるようになった。
- 43 自分の分をわかまえるようになった。
- 46 自分の欲しいものなどが我慢できるようになった。

**第3因子:運命・信仰・伝統の受容**

- 11 信仰や宗教が身近になった。
- 12 常識やしきたりを考えるようになった。
- 15 伝統や文化の大切さを思うようになった。
- 25 物事を運命だと受け入れられるようになった。
- 27 人間の力を超えたものがあることを信じるようになった。
- 38 運や巡りあわせを考えるようになった。

- 41 長幼の序は大切だと思うようになった。
- 48 情にもろくなった。

**第4因子:視野の広がり**

- 1 弱い立場の人に思いやりを持つようになった。
- 7 どの様な人にもその人なりの良さがあると感じるようになった。
- 16 日本や世界の将来について関心が増した。
- 18 児童福祉や教育問題に関心を持つようになった。
- 20 日本の政治に関心が増した。
- 28 一人一人がかけがえのない存在だと思う

ようになった。

40 協力することの大切さがわかるようになった。

47 環境問題(大気汚染食品公害など)に関心が増した。

49 いろいろな人に支えられていると感じるようになった。

#### 第5因子: 生き甲斐・存在感

13 気持ちが安定した。

14 慎重になった。

21 より計画的になった。

22 自分がなくてはならない存在だと思うようになった。

23 目先のことより、将来のことを考えて行動する様になった。

24 生きている張りが増した。

34 子ども好きになった。

36 自分の健康に気をつけるようになった。

37 長生きしなければと思うようになった。

42 子どもへの関心が強くなった。

44 一人前になった気がした。

45 より大人になったと感じる。

#### 第6因子: 自己の強さ

5 物事に積極的になった。

17 多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった。

19 妥協しなくなった。

26 目的に向かって頑張れるようになった。

32 自分の立場や考えはちゃんと主張しなければと思うようになった。

## 2. 選択肢の回答

### 2-1. 第1因子: 柔軟性の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。

質問項目 2「考え方が柔軟になった。」に対する回答は、「そうなった」45.68%(439人)、「まあまあそうなった」31.95%(307人)を合わせると、77.63%(746人)となり、非常に高い値となった。同様に、質問項目 35「いろいろな角度から物事を見るようになった」についても、「そうなった」33.51%(322人)、「まあまあそうなった」37.04%(356人)を合わせると、70.55%(678人)となり、質問項目 2と同様7割を超える高い値となった。

### 2-2. 第2因子: 自己抑制の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。質問項目 8「他人の迷惑にならないように心がけるようになった。」については、「以前からそうだった」38.29%(368名)が、全体の質問紙調査の中で2番目に高い値を示している。同様に、第2因子の質問項目については、第1因子のように「そうなった」「まあまあそうなった」の回答が合計して7割を超えるものはなかった。

### 2-3. 第3因子: 運命・信仰・伝統の受容の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。質問項目 11「信仰や宗教が身近になった。」については、「そうなったとは思わない」が54.42%(523人)であり、全体の質問項目の中で、この点が突出している。また、質問項目 25「物事を運命だと受け入れられるようになった。」と質問項目 27「人間の力を超えたものがあることを信じるようになった。」は、「まあまあそうなった」と「あまりそうなったとは思わない」、あるいは「あまりそうなったとは思わない」「そうなった」という相反する回答が、同数程度となっている。

#### 2-4.第4因子:視野の広がり項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。質問項目 18「児童福祉や教育問題に関心を持つようになった。」について、「そうなった」が 50.57% (486 名)で、他の質問項目の中でも突出している。また、質問項目 28「一人一人がかげがえのない存在だと思うようになった。」についても同様に、「そうなった」が 47.45% (456 人)と高い。さらに、質問項目 47「環境問題(大気汚染食品公害など)に関心が増した。」は、「そうなった」47.14% (453 人)と「まあまあそうなった」25.18% (242 名)を合わせて 72.22% (695 名)となり、7割を超える高い値となった。

#### 2-5.第5因子:生き甲斐・存在感の項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。

第5因子は、全体的に「そうなった」「まあまあそうなった」の回答が多い。

質問項目 24「生きている張りが増した。」は、「そうなった」が 50.68% (487 名)、「まあまあそうなった」は、27.78% (267 名)であり、合わせると 78.46% (754 名)となり、約8割となる高い値となった。同様に、質問項目 22「自分がなくてはならない存在だと思うようになった。」、質問項目 36「自分の健康に気をつけるようになった。」、さらに質問項目 37「長生きしなければと思うようになった。」、質問項目 42「子どもへの関心が強くなった。」の4項目も、7割を超える高い値となった。

質問項目 42「子どもへの関心が強くなった。」は、「そうなった」の選択肢だけで、59.04% (568 人)であり、一段と高い値を示し

ている。

#### 2-6.第6因子:自己の強さの項目について

ここでは、特徴的な回答について述べる。第6因子は、質問項目 17と19で、他の質問項目と違い、そうなったとは思わないという回答が目立つ。

質問項目 17「多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった。」は、「そうなったとは思わない」21.54% (207 名)と「あまりそうなったとは思わない」46.72% (449 名)を合わせると、68.24% (656 人)という高い値になっている。質問項目 19「妥協しなくなった。」についても同様に、「そうなったとは思わない」23.10% (222 名)「あまりそうなったとは思わない」48.28% (464 名)を合わせると、71.38% (686 名)という高い値となった。

### 3. 分析および考察

ファミリー・サポート・センター事業を利用している親の成長・発達については、特に「生き甲斐・存在感」の項目で突出して高い値がでている。第1章においても述べたように、利用者は「自分が大変なときに助けて頂いた。」「誰かに恩返しをしたい」という気持ちになっている。利用者の親としての大変さを支え、自己の存在感まで支えているファミリー・サポート・センター事業の役割があきらかになったといえよう。

基礎資料

I. 親になってから最近までの心境の変化について

I-1弱い立場の人に思いやりを持つようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	3	0.31%
2. あまりそうなつたとは思わない	50	5.20%
3. まあまあそうなつた	249	25.91%
4. そうなつた	359	37.36%
5. 以前からそうだつた	286	29.76%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-3 弱い立場の人に思いやりを持つようになった

I-2考え方が柔軟になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	13	1.35%
2. あまりそうなつたとは思わない	124	12.90%
3. まあまあそうなつた	307	31.95%
4. そうなつた	439	45.68%
5. 以前からそうだつた	64	6.66%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-4 考え方が柔軟になった

I-3儉約するようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	60	6.24%
2. あまりそうなつたとは思わない	189	19.67%
3. まあまあそうなつた	277	28.82%
4. そうなつた	301	31.32%
5. 以前からそうだつた	119	12.38%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-5 儉約するようになった

I-4精神的にタフになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	33	3.43%
2. あまりそうなつたとは思わない	163	16.96%
3. まあまあそうなつた	260	27.06%
4. そうなつた	395	41.10%
5. 以前からそうだつた	97	10.09%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-6 精神的にタフになった

I-5物事に積極的になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	47	4.89%
2. あまりそうなつたとは思わない	251	26.12%
3. まあまあそうなつた	301	31.32%
4. そうなつた	212	22.06%
5. 以前からそうだつた	137	14.26%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-7 物事に積極的になった

I-6小さなことにくよくよしなくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	74	7.70%
2. あまりそうなつたとは思わない	291	30.28%
3. まあまあそうなつた	269	27.99%
4. そうなつた	200	20.81%
5. 以前からそうだつた	115	11.97%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-8 小さなことにくよくよしなくなった

I-7どの様な人にもその人なりの良さがあると感じるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなつたとは思わない	20	2.08%
2. あまりそうなつたとは思わない	84	8.74%
3. まあまあそうなつた	292	30.39%
4. そうなつた	328	34.13%
5. 以前からそうだつた	225	23.41%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-9 どの様な人にもその人なりの良さ

があると感じるようになった

I-8他人の迷惑にならないように心がけるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	8	0.83%
2. あまりそうなったとは思わない	60	6.24%
3. まあまあそうなった	224	23.31%
4. そうなった	288	29.97%
5. 以前からそうだった	368	38.29%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-10 他人の迷惑にならないように心がけるようになった

I-9自分本意の考えや行動をしなくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	17	1.77%
2. あまりそうなったとは思わない	142	14.78%
3. まあまあそうなった	381	39.65%
4. そうなった	223	23.20%
5. 以前からそうだった	184	19.15%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-11 自分本意の考えや行動をしなくなった

I-10他人の立場や気持ちをくみとるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	8	0.83%
2. あまりそうなったとは思わない	72	7.49%
3. まあまあそうなった	330	34.34%
4. そうなった	304	31.63%
5. 以前からそうだった	235	24.45%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-12 他人の立場や気持ちをくみとるようになった

I-11信仰や宗教が身近になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	523	54.42%
2. あまりそうなったとは思わない	226	23.52%
3. まあまあそうなった	73	7.60%
4. そうなった	59	6.14%
5. 以前からそうだった	66	6.87%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-13 信仰や宗教が身近になった

I-12常識やしきたりを考えるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	46	4.79%
2. あまりそうなったとは思わない	124	12.90%
3. まあまあそうなった	329	34.24%
4. そうなった	233	24.25%
5. 以前からそうだった	217	22.58%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-14 常識やしきたりを考えるようになった

I-13気持ちが安定した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	127	13.22%
2. あまりそうなったとは思わない	273	28.41%
3. まあまあそうなった	303	31.53%
4. そうなった	177	18.42%
5. 以前からそうだった	69	7.18%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-15 気持ちが安定した。

I-14慎重になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	63	6.56%
2. あまりそうなったとは思わない	238	24.77%
3. まあまあそうなった	341	35.48%
4. そうなった	198	20.60%
5. 以前からそうだった	109	11.34%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-16 慎重になった



I-15 伝統や文化の大切さを思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	64	6.66%
2. あまりそうなったとは思わない	182	18.94%
3. まあまあそうなった	300	31.22%
4. そうなった	273	28.41%
5. 以前からそうだった	129	13.42%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-17 伝統や文化の大切さを思うようになった

I-18 児童福祉や教育問題に関心を持つようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	16	1.66%
2. あまりそうなったとは思わない	33	3.43%
3. まあまあそうなった	268	27.89%
4. そうなった	486	50.57%
5. 以前からそうだった	146	15.19%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-20 児童福祉や教育問題に関心を持つようになった

I-16 日本や世界の将来について関心が増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	54	5.62%
2. あまりそうなったとは思わない	159	16.55%
3. まあまあそうなった	257	26.74%
4. そうなった	358	37.25%
5. 以前からそうだった	118	12.28%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-18 日本や世界の将来について関心が増した

I-19 妥協しなくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	222	23.10%
2. あまりそうなったとは思わない	464	48.28%
3. まあまあそうなった	169	17.59%
4. そうなった	44	4.58%
5. 以前からそうだった	46	4.79%
無回答	16	1.66%
合計	961	100.00%

表 2-21 妥協しなくなった

I-17 多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	207	21.54%
2. あまりそうなったとは思わない	449	46.72%
3. まあまあそうなった	164	17.07%
4. そうなった	65	6.76%
5. 以前からそうだった	60	6.24%
無回答	16	1.66%
合計	961	100.00%

表 2-19 多少他の人と摩擦があっても自分の主義は通すようになった

I-20 日本の政治に関心が増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	100	10.41%
2. あまりそうなったとは思わない	233	24.25%
3. まあまあそうなった	318	33.09%
4. そうなった	204	21.23%
5. 以前からそうだった	93	9.68%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-22 日本の政治に関心が増した

I-21 より計画的になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	62	6.45%
2. あまりそうなったとは思わない	191	19.88%
3. まあまあそうなった	328	34.13%
4. そうなった	255	26.53%
5. 以前からそうだった	114	11.86%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-23 より計画的になった

I-22自分がなくてはならない存在だと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	25	2.60%
2. あまりそうなったとは思わない	115	11.97%
3. まあまあそうなった	286	29.76%
4. そうなった	449	46.72%
5. 以前からそうだった	75	7.80%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-24 自分が無くてはならない存在だと思うようになった

I-23目先のことより、将来のことを考えて行動する様になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	44	4.58%
2. あまりそうなったとは思わない	189	19.67%
3. まあまあそうなった	337	35.07%
4. そうなった	283	29.45%
5. 以前からそうだった	96	9.99%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-25 目先のことより、将来のことを考えて行動するようになった

I-24生きている張りが増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	32	3.33%
2. あまりそうなったとは思わない	95	9.89%
3. まあまあそうなった	267	27.78%
4. そうなった	487	50.68%
5. 以前からそうだった	68	7.08%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-26 生きている張りが増した。

I-25物事を運命だと受け入れられるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	86	8.95%
2. あまりそうなったとは思わない	236	24.56%
3. まあまあそうなった	261	27.16%
4. そうなった	233	24.25%
5. 以前からそうだった	130	13.53%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-27 物事を運命だと受け入れられるようになった

I-26目的に向かって頑張れるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	32	3.33%
2. あまりそうなったとは思わない	148	15.40%
3. まあまあそうなった	319	33.19%
4. そうなった	264	27.47%
5. 以前からそうだった	184	19.15%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-28 目的に向かって頑張れるようになった

I-27人間の力を超えたものがあることを信じるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	133	13.84%
2. あまりそうなったとは思わない	260	27.06%
3. まあまあそうなった	200	20.81%
4. そうなった	212	22.06%
5. 以前からそうだった	142	14.78%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-29 人間の力を超えたものがあることを信じるようになった

I-28一人一人がかげがえのない存在だと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	18	1.87%
2. あまりそうなったとは思わない	45	4.68%
3. まあまあそうなった	193	20.08%
4. そうなった	456	47.45%
5. 以前からそうだった	236	24.56%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-30 1人1人がかげがえのない存在だと思うようになった

I-32自分の立場や考えはちゃんと主張しなければと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	46	4.79%
2. あまりそうなったとは思わない	179	18.63%
3. まあまあそうなった	336	34.96%
4. そうなった	243	25.29%
5. 以前からそうだった	143	14.88%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-34 自分の立場や考えはちゃんと主張しなければと思うようになった

I-29人との和を大事にするようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	13	1.35%
2. あまりそうなったとは思わない	59	6.14%
3. まあまあそうなった	259	26.95%
4. そうなった	320	33.30%
5. 以前からそうだった	298	31.01%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-31 人との和を大事にするようになった

I-33他人に対して寛大になった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	32	3.33%
2. あまりそうなったとは思わない	156	16.23%
3. まあまあそうなった	407	42.35%
4. そうなった	263	27.37%
5. 以前からそうだった	90	9.37%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-35 他人に対して寛大になった

I-30角がとれて丸くなった

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	56	5.83%
2. あまりそうなったとは思わない	209	21.75%
3. まあまあそうなった	355	36.94%
4. そうなった	237	24.66%
5. 以前からそうだった	90	9.37%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-32 角が取れて丸くなった

I-34子ども好きになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	28	2.91%
2. あまりそうなったとは思わない	90	9.37%
3. まあまあそうなった	251	26.12%
4. そうなった	276	28.72%
5. 以前からそうだった	305	31.74%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-36 子ども好きになった

I-31度胸がついた。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	63	6.56%
2. あまりそうなったとは思わない	194	20.19%
3. まあまあそうなった	310	32.26%
4. そうなった	264	27.47%
5. 以前からそうだった	118	12.28%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-33 度胸がついた

I-35いろいろな角度から物事を見るようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	22	2.29%
2. あまりそうなったとは思わない	136	14.15%
3. まあまあそうなった	356	37.04%
4. そうなった	322	33.51%
5. 以前からそうだった	114	11.86%
無回答	11	1.14%
合計	961	100.00%

表 2-37 いろいろな角度から物事を見るよう

になった

I-36自分の健康に気をつけるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	24	2.50%
2. あまりそうなったとは思わない	79	8.22%
3. まあまあそうなった	237	24.66%
4. そうなった	479	49.84%
5. 以前からそうだった	130	13.53%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-38 自分の健康に気をつけるようになった

I-37長生きしなければと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	57	5.93%
2. あまりそうなったとは思わない	118	12.28%
3. まあまあそうなった	233	24.25%
4. そうなった	448	46.62%
5. 以前からそうだった	93	9.68%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-39 長生きしなければと思うようになった

I-38運や巡りあわせを考えるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	90	9.37%
2. あまりそうなったとは思わない	171	17.79%
3. まあまあそうなった	231	24.04%
4. そうなった	307	31.95%
5. 以前からそうだった	150	15.61%
無回答	12	1.25%
合計	961	100.00%

表 2-40 運や巡りあわせを考えるようになった

I-39思い通りにならないことがあっても我慢できるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	22	2.29%
2. あまりそうなったとは思わない	109	11.34%
3. まあまあそうなった	388	40.37%
4. そうなった	251	26.12%
5. 以前からそうだった	177	18.42%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-41 思い通りにならないことがあっても我慢できるようになった

I-40協力することの大切さがわかるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	6	0.62%
2. あまりそうなったとは思わない	48	4.99%
3. まあまあそうなった	292	30.39%
4. そうなった	354	36.84%
5. 以前からそうだった	246	25.60%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-42 協力することの大切さがわかるようになった

I-41長幼の序は大切だと思うようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	35	3.64%
2. あまりそうなったとは思わない	138	14.36%
3. まあまあそうなった	364	37.88%
4. そうなった	256	26.64%
5. 以前からそうだった	142	14.78%
無回答	26	2.71%
合計	961	100.00%

表 2-43 長幼の序は大切だとおもうようになった

I-42子どもへの関心が強くなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	11	1.14%
2. あまりそうなったとは思わない	24	2.50%
3. まあまあそうなった	177	18.42%
4. そうなった	568	59.11%
5. 以前からそうだった	164	17.07%
無回答	17	1.77%
合計	961	100.00%

表 2-44 子どもへの関心が強くなった

I-43自分の分をわかまえるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	33	3.43%
2. あまりそうなったとは思わない	149	15.50%
3. まあまあそうなった	389	40.48%
4. そうなった	224	23.31%
5. 以前からそうだった	152	15.82%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-45 自分の分をわかまえるようになった

I-44一人前になった気がし

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	171	17.79%
2. あまりそうなったとは思わない	352	36.63%
3. まあまあそうなった	262	27.26%
4. そうなった	135	14.05%
5. 以前からそうだった	26	2.71%
無回答	15	1.56%
合計	961	100.00%

表 2-46 一人前になった気がした

I-45より大人になったと感じ

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	147	15.30%
2. あまりそうなったとは思わない	305	31.74%
3. まあまあそうなった	300	31.22%
4. そうなった	171	17.79%
5. 以前からそうだった	25	2.60%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-47 より大人になったと感じる

I-46自分の欲しいものなどが我慢できるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	65	6.76%
2. あまりそうなったとは思わない	123	12.80%
3. まあまあそうなった	324	33.71%
4. そうなった	252	26.22%
5. 以前からそうだった	184	19.15%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 2-48 自分の欲しいものなどが我慢できるようになった

I-47環境問題(大気汚染・食品公害など)に関心が増した。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	27	2.81%
2. あまりそうなったとは思わない	67	6.97%
3. まあまあそうなった	242	25.18%
4. そうなった	453	47.14%
5. 以前からそうだった	158	16.44%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-49 環境問題(大気汚染・食品公害)に関心が増した

I-48情にもろくなった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	37	3.85%
2. あまりそうなったとは思わない	112	11.65%
3. まあまあそうなった	186	19.35%
4. そうなった	359	37.36%
5. 以前からそうだった	253	26.33%
無回答	14	1.46%
合計	961	100.00%

表 2-50 情にもろくなった。

I-49いろいろな人に支えられていると感じるようになった。

選択肢	度数	パーセント
1. そうなったとは思わない	9	0.94%
2. あまりそうなったとは思わない	20	2.08%
3. まあまあそうなった	116	12.07%
4. そうなった	629	65.45%
5. 以前からそうだった	174	18.11%
無回答	13	1.35%
合計	961	100.00%

表 1-51 いろいろな人に支えられていると感じるようになった

<sup>1</sup> 柏木恵子、若松素子『『親となる』ことによる人格発達：生涯発達の視点から親を研究する試み』『発達心理学研究』第5巻、第1号、72-83頁。

<sup>2</sup> 1と同書76頁引用。

## Ⅶ 単純集計〈親への調査票〉

### 3. 親にとっての事業利用はどのような経験となっているか

#### 〈要旨〉

ファミリー・サポート・センター事業において、親は、どのような経験をしているのだろうか。保育の提供者と利用者は、単なる子どもを預ける、預かるだけのかかわりなのだろうか。このことを明らかにするために、ファミリー・サポート・センター事業を利用している親の経験について検討した。

その結果、保育士と違い、保育の専門家ではない提供会員に、子どもを預けることに対して、「不安」だと思っている利用者が1割以下であることがわかった。また、家庭的保育は、個々の家庭のプライバシーの問題に触れる場合があり、提供会員も注意をしているようだが、利用者にとっては、「提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。」は、約9割が「ない」あるいは「あまりない」と感じていることがわかった。提供会員がプライバシーに踏み込んでいないのか、あるいは、保育をする側と利用する側が、家庭生活のことを親身に話せる間柄になっているのか、二つのパターンが考えられる。

また、家事についての項目は、2項目とも8割前後が、「ない」あるいは「あまりない」と回答している。ただ、自由記述の中では、家事を手伝って頂いて感謝している利用者もいる。

一方、提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している割合は、非常に高い。この点は、提供会員の利用者に対する関わりが、利用者の意識を変える要素になっていると考えられるので、さらに検証が必要な項目である。

また、「我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。」や、「提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。」「提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。」など、利用者である親は、地域の住民との関わりに感謝していることがわかる。

#### 1. 問題状況

ファミリー・サポート・センター事業において、親は、どのような経験をしているのだろうか。保育の提供者と利用者は、単なる子どもを預ける、預かるだけのかかわりなのだろうか。

ファミリー・サポート・センター事業を通じた経験について検証された先行研究は、管見の限り見あたらない。そこで、ここでは質問項目を選定するため、予備調査を行った。

#### 2. 質問項目の選定

##### 2-1. 予備調査

予備調査を行うに当たって、序章で述べたエスクに2007年11月、ヒアリング調査に行き、ファミリー・サポート・センター事業を利用する中で、親がどのような経験をしているのか、ヒアリングを行った。そのヒアリングの中から、以下の29項目を選定した。

- 1 提供会員に、育児の悩みを聞いてもらう。
- 2 提供会員に、家事や育児の方法を習う。
- 3 提供会員に、家事や育児(預かる以外)を

手伝ってもらおう。

- 4 提供会員に、無理なお願いを引き受けてもらうことがある。
- 5 提供会員に、プライベートなことを話す。
- 6 提供会員から、地域行事や地域活動への誘いを受ける。
- 7 提供会員から誘いを受け、地域行事や地域活動へ参加する。
- 8 提供会員と、子どもや家族の将来について話す。
- 9 提供会員を、見習いたい(尊敬したい)と思う。
- 10 提供会員と、児童福祉や教育問題の話をする。
- 11 提供会員から、物事の見方・考え方を教えてもらう。
- 12 提供会員から、節約について習う。
- 13 提供会員から、常識やしきたり、伝統文化の大切さを教えてもらう。
- 14 提供会員と、自分の(おとなの)健康について話す。
- 15 担当の提供会員がコロコロ変わる。
- 16 提供会員本人以外の、提供会員の家族と関わる。
- 17 提供会員に連絡すればよいと思うと、孤立感を感じずに安心する。
- 18 提供会員から、子育てについて注意や指導を受ける。
- 19 提供会員が、プライバシーに踏み込みすぎていると感じる。
- 20 自分の考え方や行動で、提供会員と衝突する。
- 21 自分の考え方や行動で、提供会員と衝突し和解する。
- 22 ファミリー・サポート・センター事業主催の交流会等に参加する。

- 23 子どもにコミュニケーション能力が身につく。
- 24 子どもの性格が明るくなり、いきいきとなる。
- 25 子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身につく。
- 26 子どもに、挨拶などの礼儀作法が身につく。
- 27 子どもが提供会員に身内のようになっている。
- 28 子どもの精神面が安定した。
- 29 子どもの身体面が安定した(病気や怪我が減った)。

選択肢は、「4. よくある」「3. 時々ある」「2. あまりない」「1. 全くない」の4段階選択肢を設定し、最も該当するものの選択を求めた。

予備調査は、この29項目と、第2章において述べた親の成長・発達に関する49項目、さらに属性を回答する項目を用意し、予備調査紙を作成した。調査時期は、2007年12月～2008年1月である。調査対象は、佐賀県鳥栖市、唐津市のファミリー・サポート・センター利用者全員676名。153通を回収した。回収率は、22.6%である。

## 2-2. 選択肢の回答

記入者の属性は、母親144人、父親5人、祖母1人、無回答3人である。記入者の年齢区分は、10代～20代が14人、30代105人、40代22人、50代以上3人、無回答9人である。

調査結果は、回答に偏りが見られた。選択肢の「1. あまりない」に、回答数が極端に偏っている項目、類似した2項目を取捨し、16項目を抽出した。また、16項目を3つにカテゴリー化し、それぞれのグループに名前をつけた。回答者153人の中から、ファミリー・



サポート・センターの利用歴が1回以上ある会員の回答を統計から抜き出し44人の回答でデータを出した。このことで、データ数が減り、信憑性は低くなるものの、より、親の育ちとファミリー・サポート・センターにおける経験とを結び付けやすくなった。

グループ1:

提供会員からの学び 1、2、11、12、13

グループ2:

支えられている実感 3、4、5、16

グループ3:

子どもへの影響 23、24、25、26、27、28、29

また利用者が回答した自由記述のなかから、さらに項目を選定した。

この作業によって、以下の32項目を確定した。

- 1 提供会員の家族と関わった。
- 2 提供会員のおかげで、子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身についた。
- 3 事業を通じて、地域に知り合いが増えた。
- 4 提供会員のおかげで、子どもにコミュニケーション能力が身についた。
- 5 我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。
- 6 提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している。
- 7 提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。
- 8 提供会員から、食い初め等年中行事や、伝統文化の大切さを教えてもらった。
- 9 提供会員から、親としての姿を学んだ。
- 10 提供会員が、我が子(利用会員の子ども)のかわいさに気づかせてくれた。
- 11 提供会員のおかげで、子どもの病気への対処に関して不安が減った。

12 提供会員のおかげで、子どもの精神面が安定した。

13 提供会員に、無理なお願いを引き受けてもらった。

14 提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。

15 提供会員のおかげで、子どもの身体面が安定した(病気や怪我が減った)。

16 提供会員に、社会とのつながりの大切さを、理解してもらえた。

17 提供会員から、子育ては母親がすべきものと言われた。

18 提供会員から、効率的な家事や節約の方法について習った。

19 提供会員に、親としてだけではなく、社会の一員として認めてもらえた。

20 提供会員に、子どもが身内のようになつくようになった。

21 提供会員のおかげで、子どもに、挨拶などの礼儀作法が身についた。

22 提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。

23 提供会員に連絡すればよいと思うと、孤立感を感じなくなった。

24 提供会員から、仕事と育児の両立をサポートしてもらった。

25 提供会員に、育児の悩みを聞いてもらった。

26 提供会員から、物事の見方・考え方を教えてもらった。

27 提供会員に、子どもを預けることが不安になった。

28 提供会員に、家事を手伝ってもらった。

29 提供会員から、地域行事や地域活動への誘いを受けた。

30 提供会員に、育児の方法を習った。

31 提供会員やファミリー・サポート・センター事業は、いざと言うとき助けてくれる存在になった。

32 提供会員とは、お金と託児を介したつきあいだけだ。

### 3. 選択肢の回答(本調査)

予備調査において確定した調査項目によって、佐賀市および小城市においてさらに予備調査を行った上で、全国のファミリー・サポート・センター事業者へ調査を実施した。利用者 961 名から回答をえた。

選択肢の回答において、顕著な度数分布がみられたものは2種類に分けられる。一つは、「全くない」「あまりない」が7割以上を占める項目(質問項目2, 14, 17, 18, 27, 28, 29)。もう一つは、「よくある」「時々ある」が7割以上を占める項目である(質問項目5, 6, 7, 22)。

#### 3-1. 「全くない」「あまりない」が7割以上を占める項目

質問項目 17「提供会員から、子育ては母親がすべきものと言われた。」は、「まったくない」84.39%(811 人)、「あまりない」8.12%(78 人)であり、合わせると 92.51%(889 人)と高い値になる。さらに質問項目 27「提供会員に、子どもを預けることが不安になった。」は、「まったくない」79.40%(763 人)、「あまりない」12.38%(119 人)であり、合わせると 91.78%(882 人)と高い値になる。また、質問項目 14「提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。」は、「まったくない」78.15%(751 人)、「あまりない」13.53%(130 人)であり、合わせると 91.68%(881 人)となり、この3項目の質問は、9割以上が当てはまらなないと回答している。

その他にも、質問項目 28「提供会員に、家事を手伝ってもらった。」は、「まったくない」77.11%(741 人)、「あまりない」9.99%(96 人)であり、合わせると 87.10%(837 人)となる。質問項目 18「提供会員から、効率的な家事や節約の方法について習った。」は、「まったくない」57.23%(550 人)、「あまりない」22.58%(217 人)であり、合わせると 79.81%(767 人)となる。質問項目 29「提供会員から、地域行事や地域活動への誘いを受けた。」は、「まったくない」64.72%(622 人)、「あまりない」14.88%(143 人)であり、合わせると 79.60%(765 人)と高い値になる。質問項目 2「提供会員のおかげで、子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身についた。」は、「まったくない」44.54%(428 人)、「あまりない」34.24%(329 人)であり、合わせると 78.78%(757 人)となるなど、以上4項目は、9割まではいかないが、「全くない」「あまりない」への回答に集中していた。

#### 3-2. 「よくある」「時々ある」が7割以上を占める項目

質問項目 6「提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している。」は、「よくある」71.70%(689 人)、「時々ある」18.83%(181 人)であり、あわせると 90.53%(870 人)となり、9割以上の利用者に選択されている。

他に、質問項目 5「我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。」は、「よくある」61.60%(592 人)、「時々ある」27.26%(262 人)であり、あわせると 88.86%(854 人)。質問項目 7「提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。」は、「よくある」49.84%(479 人)、「時々ある」27.26%(262

人)であり、あわせると77.10%(741人)。質問項目22「提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。」は、「よくある」39.75%(382人)、「時々ある」35.17%(338人)であり、あわせると74.92%(720人)となる。

#### 4. 分析および考察

保育士と違い、保育の専門家ではない提供会員に、子どもを預けることに対して、「不安」だと思っている利用者が1割以下であることがわかった。また、家庭的保育は、個々の家庭のプライバシーの問題に触れる場合があり、提供会員も注意をしているようだが、利用者にとっては、「提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。」は、約9割が「ない」あるいは「あまりない」と感じていることがわかった。提供会員がプライバシーに踏み込んでいないのか、あるいは、保育をする側と利用する側が、家庭生活のことを親身に話せる間柄になっているのか、二

つのパターンが考えられる。

また、家事についての項目は、2項目とも8割前後が、「ない」あるいは「あまりない」と回答している。ただ、自由記述の中では、家事を手伝って頂いて感謝している利用者もいる。

一方、提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している割合は、非常に高い。この点は、提供会員の利用者に対する関わりが、利用者の意識を変える要素になっていると考えられるので、さらに検証が必要な項目である。

また、「我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。」や、「提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。」「提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。」など、利用者である親は、地域の住民との関わりに感謝していることがわかる。

#### 基礎資料

Ⅱ-1提供会員の家族と関わった。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	220	22.89%
2. あまりない	218	22.68%
3. 時々ある	321	33.40%
4. よくある	162	16.86%
無回答	40	4.16%
合計	961	100.00%

Ⅱ-2提供会員のおかげで、子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身についた。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	428	44.54%
2. あまりない	329	34.24%
3. 時々ある	117	12.17%
4. よくある	42	4.37%
無回答	45	4.68%
合計	961	100.00%

II-3事業を通じて、地域に知り合いが増えた。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	183	19.04%
2. あまりない	225	23.41%
3. 時々ある	303	31.53%
4. よくある	208	21.64%
無回答	42	4.37%
合計	961	100.00%

II-5我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	28	2.91%
2. あまりない	37	3.85%
3. 時々ある	262	27.26%
4. よくある	592	61.60%
無回答	42	4.37%
合計	961	100.00%

II-7提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	68	7.08%
2. あまりない	108	11.24%
3. 時々ある	262	27.26%
4. よくある	479	49.84%
無回答	44	4.58%
合計	961	100.00%

II-9提供会員から、親としての姿を学んだ。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	144	14.98%
2. あまりない	207	21.54%
3. 時々ある	344	35.80%
4. よくある	218	22.68%
無回答	48	4.99%
合計	961	100.00%

II-4提供会員のおかげで、子どもにコミュニケーション能力が身についた。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	125	13.01%
2. あまりない	189	19.67%
3. 時々ある	385	40.06%
4. よくある	215	22.37%
無回答	47	4.89%
合計	961	100.00%

II-6提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	19	1.98%
2. あまりない	28	2.91%
3. 時々ある	181	18.83%
4. よくある	689	71.70%
無回答	44	4.58%
合計	961	100.00%

II-8提供会員から、食い初め等年中行事や、伝統文化の大切さを教えてもらった。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	382	39.75%
2. あまりない	289	30.07%
3. 時々ある	171	17.79%
4. よくある	72	7.49%
無回答	47	4.89%
合計	961	100.00%

II-10提供会員が、我が子(利用会員の子ども)のかわいさに気づかせてくれた。

選択肢	度数	パーセント
1. 全くない	109	11.34%
2. あまりない	172	17.90%
3. 時々ある	376	39.13%
4. よくある	257	26.74%
無回答	47	4.89%
合計	961	100.00%